

社団法人地盤工学会 平成 21 年度 第 4 回 理 事 会

議 事 録

日 時 : 平成 21 年 7 月 24 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 45		場 所 : 地盤工学会大会議室	
出席者 :			
浅岡 顕 会 長 ○	風間 基樹 総務部長 ○	坪田 邦治 理 事 ○	江藤 芳武 理 事 ○
西垣 誠 副 会 長 × (兼災害担当兼企画部長)	西本 聡 会員・支部部長 ○	原田 健二 理 事 ○	三藤 正明 監 事 ○
	古関 潤一 国際部長 ○	谷 和夫 理 事 ○	谷 茂 監 事 ○
高橋 邦夫 副 会 長 ○ (兼基準部長)	三村 衛 会誌部長 ○	岩田 英二 理 事 ○	
	古屋 弘 事業部長 ○	大塚 悟 理 事 ○	
村上 章 副 会 長 ○ (兼総務担当)	川邊 敏弘 調査・研究部長 ○	李 圭太 理 事 ○	
	奥野 哲夫 理 事 ○	中井 正一 理 事 ×	

【事務局】戸塚事務局長, 浅野次長兼総務・経理課長, 鈴木一般事業課長, 下山刊行事業課長
注) ○ : 出席、× : 欠席

*定款 34 条に則り理事出席者 17 名が定足数 (13 名、定員 19 名の 3 分の 2) を満足している事を確認し、理事会の成立が報告された。

*議事録署名者として、風間基樹、奥野哲夫 を選出した。

議 題 :

議 事 録 確 認

*以下の議事録が承認された。

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 1. 理事会議事録 (案) (5/15) | [別紙-1] pp. 1-4 |
| 2. 第 51 回通常総会議事録 (5/28) | [別紙-2] pp. 5-10 |
| 3. 理事会議事録 (案) (5/28 総会途中理事会) | [別紙-3] pp. 11-12 |
| 4. 運営連絡会議議事録 (案) (6/26) | [別紙-4] pp. 13-15 |

審 議 事 項

I 総 務 部

1. 平成 22 年度予算案作成スケジュール (案) 及び事業方針・計画 (案) [別紙-5] pp. 16-18
*坪田理事から事業方針・計画 (案) などについて説明がなされた。収支相償に関して、各部・各支部において、従来通りの予算立案を行い、その後、公益法人化を目的とした会計体系に組替え変更することなどの質疑応答がなされた後、満場一致で承認された。
2. 公益法人化の件
 - 1) 臨時総会での議案資料 [別添資料-1] [差替 (当日配布)]
*第 1 号議案～第 3 号議案について、風間理事、坪田理事から説明がなされた。収益事業会計に関しては、将来発生する可能性があることから、会計体系として構築しておくこと、および収益事業か公益事業かの判断基準については、別途進行中の 2009 年度会長特別委員会のなかで提案される予定などの質疑応答がなされた後、満場一致で承認された。
3. 寄付受け入れに伴う規程の制定 [別紙-6] p. 19
*村上副会長から、本規定に関する三木弁護士の指導による修正が完了していることも含めた説明がなされ、満場一致で承認された。

4. 「旅費支給規程」の変更

[別紙-7] pp. 20-24

* 風間理事から説明がなされ、文部科学省の指導もあり市場価格の導入に移行することが満場一致で承認された。なお、施行は、事前に各部に連絡していることもあり、平成 21 年 7 月 25 日とすることも承認された。併せて領収書の取扱についての質疑応答がなされ、事務局（戸塚局長）から Web 上の領収書を印刷して、本部に提出することで、事務手続きは完了することが説明された。

I 災害連絡会議

* 特になし。

II 企画部

* 特になし

III 会員・支部部

1. 平成 21 年度本部支部連絡協議会議事次第（案）

[別紙-8] p. 25

2. 新規入会希望者（平成 21 年 7 月 1 日入会）

[別紙-9] pp. 26-29

* 西本理事から説明がなされ、上記について満場一致で承認された。

IV 国際部

1. IS 北海道 2012 開催計画

[別紙-10] pp. 30-32

2. IS 金沢 2012 開催計画

[別紙-11] pp. 33-39

* 古閑理事から、上記 IS は独立採算で会計されることと、黒字の場合の利益処理に関しては、本部 7 : 支部 3 の割合で配分されることなどの説明がなされ、満場一致で承認された。

V 会誌部

* 特になし

VI 事業部

1. オンデマンド講習会の契約書（案）

[別紙-12] pp. 40-44

* 古屋理事から、(株)久保田情報技研との契約に関する説明、また、CPD の賦与に関しては、サーバーにアクセスした記録により確認できることから CPD 賦与可能であることなどが説明され、満場一致で承認された。

VII 調査・研究部

1. 常設委員会委員長の交代

1) 研究統括委員会

・ 中澤 博志 委員長 ((独) 港湾空港技術研究所) → 阿保 寿郎 氏 (飛島建設 (株))

2) 行事委員会

・ 河村 隆 委員長 (信州大学) → 山田 祐樹 氏 (鹿島建設 (株))

3) 学術情報委員会

・ 深田 久 委員長 ((株) 不動テトラ) → 井上 波彦 氏 (国土交通省国土技術政策総合研究所)

※ 任期満了に伴う交代、新委員長候補はすべて部員からの会務変更

2. 第 43 回地盤工学研究発表会（広島大会）の支部還付金

[別紙-13] pp. 45-48

3. 新規制定細則「地盤工学シンポジウム優秀論文賞候補者選定に関する細則(案)」

[別紙-14] p. 49

* 上記 1～3 に関して、川邊理事から説明がなされ、満場一致で承認された。なお、風間理事から、3. に関して、9 月の表彰委員会で表彰規定の変更を行う予定であることの追加説明がなされた。

VIII 基準部

1. 新規制定地盤工学会基準

[別添資料-2]

- ①JGS 3541 埋設ひずみ法による初期地圧測定方法
- ②JGS 3551 円錐孔底ひずみ法による初期地圧測定方法

*上記に関して、江藤理事から説明がなされ、満場一致で承認された。

予備審議事項

I 総務部

1. 受託研究受入の流れ(案)

[別紙-15] pp.50-57

*奥野理事から説明がなされた。公益性の判断を取り入れた受入判断基準が必要との指摘があり、継続審議とした。

報告事項

I 総務部

1. 経理関係報告

[別紙-16] p.58、[別添資料-3]

2. 公認会計士との契約の件

[別紙-17] pp.59-65

*上記1～2について、坪田理事から報告がなされ了承された。

3. 各支部の地方税納付額

[別紙-18] p.66

*事務局(浅野次長)から報告がなされ了承された。

4. 平成21年度総務部管轄・所管委員会の構成

[別紙-19] pp.67-72

- 1) 公益法人化推進委員会
- 2) 災害連絡会議
- 3) 広報委員会

*上記1)～2)について風間理事、3)について奥野理事から報告がなされ了承された。

5. 広報関連報告

[別紙-20] pp.73-77

- 1) パンフレットに差し込むリーフレット
- 2) 夏休み親子実験教室

*上記1)～2)について奥野理事から報告がなされ了承された。

6. 第2期代議員補欠選挙結果の会誌報告(投票締切6/22、8月号当選決定の会告)

[別紙-21] p.78

*上記について、風間理事から報告がなされ了承された。

7. 公益法人化の件

- 1) 臨時総会の式次第、進行スケジュール
- 2) 定款変更に伴う学会規則、運営規程、総務部規程変更の件

[別紙-22] pp.79-81

[別紙-23] pp.82-101

*上記について風間理事から報告がなされ了承された。

8. 財団法人からの寄付受け入れの件

[別紙-24] pp.102-103

*上記について風間理事から報告がなされ、受け入れが了承された。なお、運営に関しては、今後の検討とした。

9. 文部科学省の実地調査での指摘事項

[別紙-25] pp.104-108

*上記について風間理事から報告がなされ、指摘事項について、H21年12月までに報告することが了承された。

10. 文部科学省への届出(事業計画及び収支予算・収支決算、第51回通常総会議事録):平成21年6月29日送付

*上記について風間理事から報告がなされ了承された。

11. 2007年度会長特別委員会の件

[別紙-26] pp.109-117

- 1) 報告書の価格および印刷部数

2) 研究発表会における特別セッション

*上記について風間理事から、販売価格が6,000円を予定していることと、全国大会にて報告が予定(8.19)されていることなどの報告がなされた承された。

12. 創立60周年による業界紙の企画特集号発行の件

1) 「日刊建設工業新聞社60周年記念特集号」の企画内容 [別紙-27] pp.118-119

2) 「日刊建設通信新聞社60周年記念特集号」の企画内容 [別紙-28] pp.120-121

*上記について、風間理事から報告がなされた承された。

13. 関連団体からの照会等

1) 科学技術専門家ネットワーク専門委員の推薦 [別紙-29] pp.122-123

2) 研究の現場において研究を進める上での支障になっている事項の照会 [別紙-30] pp.124-130

3) 日本工学会からの依頼「21世紀の豊かな暮らしを支える工学と技術」執筆内容 [別紙-31] pp.131-134

*上記について、風間理事から報告がなされた承された。

14. 事務局関連

1) 職員の昇格

・浅野有三 総務・経理課長 ⇒ 次長兼総務・経理課長(平成21年6月1日付)

2) 事務局主管業務細則の変更案 [別紙-32] pp.135-136

3) 事務局職員の夏休み: 8月発表会開催のため、7月15日から9月15日の間の交代での5日間の休暇とする。

*上記について、風間理事から報告がなされた承された。

15. その他

1) 土木学会 地盤工学委員会への委員の推薦

・総務部員 田中耕一氏(鹿島建設)

2) 共催、後援、協賛等の依頼

①「丸善丸の内本店土木・建築図書特別展示即売会」の後援 主催:丸善、土木・建築書協会 H21.5.24-6.27

②「丸善名古屋栄店土木・建築図書特別展示即売会」の後援 主催:丸善、土木・建築書協会 H21.6.11-8.15

③「建築学会の技術者倫理教材講習会」の後援 主催:日本建築学会 H21.6.11,15,25

④「2009地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展」の協賛 主催:日本工業新聞社ほか H21.9.16-18

⑤「第24回信頼性シンポジウム」の協賛 主催:日本材料学会 H21.12.10-11

⑥「第24回ジオシンセティックスシンポジウム」の共催 主催:IGS日本支部 H21.12.3-4

⑦「阪神・淡路大震災15周年フォーラム(仮称)」の共催及び組織委員(芥川真一教授)の派遣 主催:日本地震工学会 H22.1.18

⑧「第15回地下空間シンポジウム」の後援 主催:土木学会 H22.1.19

⑨「火山工学・斜面工学講習会」の後援 主催:土木学会 H21.10.8

⑩「地下水のトレーサー試験講習会」の後援 主催:日本地下水学会 H21.11.20

3) HP・メールニュース等による会員への周知

①「平成21年度国土政策関係研究支援事業の研究課題」の公募(H21.6.12締切) 国土計画協会より依頼

②「労働安全衛生総合研究所研究員」の公募(H21.6.26締切) 労働安全衛生総合研究所より依頼

③「科学技術の活用に関するワークショップ」の開催(H21.6.1開催) 産総研より依頼

④「2010年度猿橋賞の授賞候補者」の公募(H21.11.30締切) 女性科学者に明るい未来をの会より依頼

⑤「平成22年度全国発明表彰」の公募(H21.8.31締切) 発明協会より依頼

⑥「アジア留日経験研究者データベース」の登録 日本学術振興会より依頼

⑦「鳥取大学大学院工学研究科教員」の公募 鳥取大学大学院工学研究科 松原雄平副研究科長より依頼

4) 第6回日本学術振興会賞受賞候補者の推薦 [別紙-33] p.137

5) 平成22年度文部科学大臣表彰「科学技術賞」および「若手科学者賞」授賞候補者の推薦 [別紙-34] p.138

*上記1)~5)について、風間理事から報告がなされた承された。

I 災害連絡会議

1. 平成 21 年 7 月 21 日山口県豪雨による土砂災害調査団の結成 [別紙-58] p. 194 (当日配布)
* 風間理事から、上記の災害調査団結成についての申請 (団長 兵藤正幸 山口大学教授) について説明がなされた承された。

II 企画部

1. 男女共同参画関連
 - 1) 男女共同参画特別セッションプログラム [別紙-35] p. 139
 - 2) 託児所
 - 3) 内閣府男女参画共同参画局キャンペーン参加 [別紙-36] pp. 140-143
2. 中長期ビジョンの企画部による達成度評価報告 [別添資料-4]
3. 委員会評価レビューシートのまとめと結果報告 [別添資料-5]
4. 創立 60 周年記念式典等 (一部変更) 報告 [別紙-37] pp. 144-145
* 上記について、原田理事から 1. 2) については 3 名の応募があることなどの報告が追加された後、了承された。

III 会員・支部部

1. 平成 21 年度会員・支部部会および関係委員会の構成 [別紙-38] pp. 146-150
 - 1) 会員・支部部会
 - 2) 技術者教育委員会
 - 3) 継続教育システム委員会
 - 4) 産官学連携支援委員会
 - 5) 本部支部活動強化委員会
2. 除籍者の慰留方策 [別紙-39] pp. 151-153
3. 第 5 期技術者教育委員会成果報告
4. 新規入会希望者 (平成 21 年 6 月 1 日入会) 【H21. 6. 26 運営連絡会議・承認】 [別紙-40] pp. 154-157
* 上記 (3. を除き) について、西本理事から報告がなされた承された。3) については、中野委員長が出席され、PPT を用いて詳細な報告がなされた。

IV 国際部

1. IS 開催報告
 - 1) IS 京都
開催日 : 21. 5. 25-27 / 会場 : 国立京都国際会館 / 参加者数 : 202 名 (国内 159 名、海外 43 名 (18 カ国から)) / 登録論文数 : 89 編 (国内 55 編、海外 34 編 (18 カ国から))
 - 2) IS 岐阜
開催日 : 21. 6. 11-12 / 会場 : 長良川国際会議場 / 参加者数 : 129 名 (国内 96 名、海外 33 名 (14 カ国から)) / 登録論文数 : 56 編 (国内 19 編、海外 37 編 (14 カ国から))
 - 3) IS 東京
開催日 : 21. 6. 15-17 / 会場 : つくば国際会議場 / 参加者数 : 284 名 (国内 150 名、海外 134 名 (32 カ国から)) / 登録論文数 : 240 編 (国内 88 編、海外 152 編 (28 カ国から))
2. 第 4 回日中地盤工学シンポジウム組織委員会および学術委員会構成案 [別紙-41] pp. 158-159
3. Groundwater Environment and Quality Management (ATC8) 国内委員会委員の追加
中島 誠 氏 (国際環境ソリューションズ株式会社 中島研究室)
4. Waste Management in Geo-Environmental Engineering (ATC17) 国内委員会委員の追加
渡部 要一 氏 ((独) 港湾空港技術研究所 地盤構造部)
5. 香港地盤工学会からの協力依頼について [別紙-42] pp. 160-161

*上記について、古関理事から報告がなされ了承された。

V 会誌部

1. 「地盤工学会誌」の発行、目次： 9月号： 8月25日納本予定、8月29日発送予定
10月号： 9月25日納本予定、9月29日発送予定 [別紙-43] pp.162-163
2. 「Soils and Foundations」 Vol.49, No.4 の発行、目次：8月25日納本予定、8月28日発送予定 [別紙-44] p.164
3. 「地盤工学ジャーナル」 Vol.4, No.2 (2009.6) の発行、概要 [別紙-45] p.165
4. 会誌編集委員の追加

1) 学生編集委員

- ・安 昶完 氏 (埼玉大学地圏科学研究センター)
- ・石田 和希 氏 (中央大学 理工学部土木工学科 地盤環境研究室)
- ・鈴木 大健 氏 (東京大学大学院 工学系研究科 社会基盤学専攻)
- ・府川 裕史 氏 (横浜国立大学 工学部建設学科 シビルエンジニアリングコース)
- ・藤田 健史 氏 (東京工業大学大学院 理工学研究科土木工学専攻)

*上記について、三村理事から報告がなされ了承された。なお、4. 1) については、今後、全国大学から公募することが望ましいとの要望がなされ、次回から対応することとした。

VI 事業部

1. 事業部既刊本の見直し
 - 1) 入門シリーズ 26. 地盤技術者のための情報化設計・施工入門：絶版 (在庫切れ後)
2. 既刊本の増刷
 - 1) 「新編 土と基礎の設計計算演習」：400部
 - 2) 「地盤工学・実務シリーズ 6. 地盤調査・土質試験結果の解釈と適用例」：300部
 - 3) 「実務に役立つ地盤工学 Q&A 第二巻」：500部

*李理事から1. 1) は新企画を取り入れて発行するなどの報告を含めて、上記について了承された。

3. 都市の地盤の出版について [別紙-46] p.166
4. 平成21年度講習会収支報告

講習会名	会場	収入予算 (円)	会員	非会員	学生	後援	予定	参加者	率 (%)
	開催日		収入実績(円) A		支出実績(円) B		実績の収支差(円) C=A-B (見込み)		
はじめて学ぶ FEM 講習会	JGS 会館大会議室	668,000	30	20	6	0	54	56	103
	5月18日,19日		762,000		235,713		526,287		
地盤・耐震工学入 門講習会	JGS 会館大会議室	405,000	33	11	1	0	42	45	107
	5月29日		475,000		108,835		366,165		
H21年度 これまでの合計		1,073,000	1,237,000		344,548		892,452		

5. 平成21年度講習会企画 (案) [別紙-47] pp.167-168
 - 1) 「海外工事・国際協力」講習会
 - 2) 「地盤材料試験の方法と解説」講習会
6. ショッピングカートの変更 [別紙-48] pp.169-172

*上記3～6について、古屋理事から報告がなされ了承された。なお、3. の都市の地盤については、丸善に委託出版するとして、フルカラーの35,000円/冊(全1巻)で800部の発行予定であることが報告された。なお、収支計画については、別途提出とすることが報告された。また、6. については、クレジットカード決済についても8月に導入する計画であることが報告された。

VII 調査・研究部

1. 平成 21 年度 調査・研究部の構成 [別紙-49] p. 173
2. 平成 21 年度新設委員会委員の構成 [別紙-50] pp. 174-175
 - 1) 情報通信技術(ICT技術)の適用による地盤工学の高度化に関する研究委員会
 - 2) 地盤材料試験結果の精度の分析と表記方法についての研究委員会
3. 委員の追加
 - 1) 2008 年 岩手・宮城内内陸地震災害調査委員会
幹事委員 藤井 登 氏 奥山ボーリング株式会社 調査設計部
委員 上島 照幸 氏 宮城大学環境システム学科
委員 熊谷 浩二 氏 八戸工業大学土木建築工学科
委員 梅村 順 氏 日本大学工学部土木工学科
委員 千葉 則行 氏 東北工業大学工学部建設システム工学科
委員 鈴木 輝一 氏 埼玉大学工学部建設工学科
委員 鈴木 久美子 氏 八戸工業大学土木建築工学科
 - 2) 高炉水砕スラグの地盤工学的有効利用促進に関する研究委員会
幹事委員 岡本 隆 氏 JFE スチール (株) スチール研究所主席研究員
委員 石蔵 良平 氏 山口大学 大学院理工学研究科 助教
4. 「横浜環状北線地盤変動監視委員会」の H21 契約
・受託額：税込¥1,894,200 円
5. 降雨と地震に対する斜面崩壊機構と安定性評価に関するシンポジウム [別紙-51] p. 176
・論文投稿数 (32 編) 増に伴う開催日数の変更 (1 日開催から 2 日間開催)
・開催日：平成 21 年 10 月 29 日 (木) ～10 月 30 日 (金)
・実行予算案：資料参照・・・投稿増に伴う参加者数増を見込む。また、論文集ページ増に伴う印刷費増を見込む。
6. 岩の力学連合会からの要請：連合会賞の選考委員の推薦
以下の 2 名を推薦することとした。
・芥川 真一 氏 (神戸大学), 小早川 博亮 氏 ((財) 電力中央研究所)
7. 第 44 回地盤工学研究発表会 (関東大会：21 年度)
 - 1) 発表講演集の印刷部数/価格設定について
・冊子版講演集・・・印刷部数：120 部 (前年比-60 部)
価格設定：22,000 円(会員特価, 税込), 28,600 円(定価, 税込)
・DVD-ROM・・・作成部数：2,000 枚 (前年比-100 部)
価格設定：14,300 円(会員特価, 税込), 18,590 円(定価, 税込) (前年と同額)
 - 2) 進行状況 [別紙-52] p. 177
8. 第 45 回地盤工学研究発表会 (四国大会：22 年度) の開催会場および開催期日 [別紙-53] pp. 178-188
 - 1) 開催日：平成 22 年 8 月 18 日 (水) ～21 日 (土) 21 日は見学会
 - 2) 会 場：愛媛大学 講義棟
 - 3) 開催日、開催会場の選定に関する説明資料および開催日に関するアンケートの結果報告
9. 第 54 回地盤工学シンポジウム [別紙-54] pp. 189-190
 - 1) 開催会告およびコマ割表
 - 2) 論文投稿数：94 編
10. 60 周年記念 DVD
 - 1) 進行状況
・7/ 3 校了を指示, プレス等開始
・7/30 納品予定
・8/ 3 事前注文者への発送予定

2) 事前注文数：27 団体 31 セット (7/16 現在)

3) 作成部数：200 セット

4) 販売促進活動

- ・全会員および特別会員メーリングリストを駆使し、PR を行う。
- ・全国大学の図書館へDM を発送する。
- ・研究発表会会場にてデモを行う。

*上記について、川邊理事から報告がなされ了承された。また、8. に関連して、第 46 回開催が予定されている関西での開催は、8 月第 3 週を除外 (大学院の入試時期に相当) して開催時期を検討することの申し送り事項について報告された。さらに、10. に関連して、7 月 24 日段階では 36 セットの注文 (年間目標は 170 枚程度) となっていることの報告がなされた。

VIII 基準部

1. 委員の追加

1) 地盤調査規格・基準委員会 WG11 スウェーデン式サウンディング

- ・大北 耕三 氏 ((株) 大北耕商事)

理由：今後のスウェーデン式サウンディング JIS 規格解説の作成に当たって、技術的に詳しい大北氏に加わっていただく。

2. ISO 海外派遣

①ISO/TC 190 調整会議、

②ISO/TC 190/SC 3 調整会議、

③AFNOR (仏国規格) ヒアリング会議出席

派遣先：1) 蘭国・ユトレヒト, 2) 独国・ベルリン, 3) 仏国・パリ

派遣者：坂井委員 (ISO/TC190/SC3/WG10 運営 WG リーダー)

期 間：平成 21 年 6 月 3 日～6 月 6 日 (2 泊 4 日)

費 用：経済産業省受託より

派遣理由：別紙

[別紙-55] p. 191

④CEN/TC 341/WG 6 会議および ISO/CEN および BS の動向調査

派遣先：英国, ロンドンおよびケンブリッジ

派遣者：豊田浩史委員 (長岡技術科学大学, TC182 国内専門委員会委員)

吉嶺充俊委員 (首都大学東京, TC182 国内専門委員会委員)

期 間：平成 21 年 5 月 26 日～6 月 1 日 (5 泊 7 日)

費 用：規格協会 (半額補助) 助成および地盤工学会 ISO 対応費

派遣理由：室内土質試験として ISO/TS 17892 Part1～12 の見直しの審議と ISO 規格に格上げするか否かの審議が行われるが、これらの試験方法はほとんどが JIS や地盤工学会基準に存在している試験方法であることから、日本に不利益な ISO 規格とならないように、日本の意見を主張するため。

⑤CEN/TC 292 および TC 345 会議出席

派遣先：スロバキア・ブラティスラバ

派遣者：坂井委員 (ISO/TC190/SC3/WG10 運営 WG リーダー)

期 間：平成 21 年 6 月 14 日～6 月 18 日 (3 泊 5 日)

費 用：三菱総合研究所 重点 TC

派遣理由：別紙

[別紙-56] p. 192

⑥CEN/TC250/SC7 (ユーロコード 7) 会議出席

派遣先：ドイツ・ミュンヘン

派遣者：松井謙二委員 (土木研究所, TC182 国内専門委員会委員)

期 間：平成 21 年 6 月 23 日～6 月 27 日 (3 泊 5 日)

費用：規格協会（半額補助）および地盤工学会 ISO 対応費

派遣理由：本会議ではユーロコード7の各国 NDP（各国独自のパラメータ）の進捗状況と次期ユーロコード7の方向性が審議されるほか、関連する TC341（地盤調査規格）、TC288（地盤施工規格）、新設 TC396（土工）などの情報が聞けるなど、欧州における地盤に係わる調査、設計、施工に係わる最新の情報を入手することが期待できる。

⑦ISO/TC 190/SC 3/WG 10（予備試験法）会議出席

派遣先：ポーランド・プラヴィー

派遣者：坂井委員（鉄道総合研究所，ISO/TC190/SC3/WG10 運営 WG リーダー）

和田委員（九州大学大学院，ISO/TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG・サブリーダー）

野上委員（リガク，ISO/TC 190/SC 3/WG 10 運営 WG メンバー）

期間：坂井・野上委員：平成 21 年 6 月 30 日～7 月 6 日（5 泊 7 日）

和田委員：平成 21 年 7 月 1 日～7 月 5 日（3 泊 5 日）

費用：坂井委員：三菱総合研究所 重点 TC

和田委員・野上委員：経済産業省受託より

派遣理由：別紙

[別紙-57] p. 193

3. 平成 21 年度 ISO 対応活動費の資金援助要請に関する経過報告

(相手先)	(金額)		報告書の有無	(納期)	
	助成	受託			
・沿岸開発技術研究センター	×				
・土木学会	検討中				
・三菱総合研究所（回答作成）	60 万円				
・三菱総合研究所（重点TC旅費）	160 万円 ※				
・経済産業省		350 万円 ※			
小計	220 万円	350 万円	※：上限、予算は 620 万円		
合計	570 万円				

4. 「打ち戻し施工によるサンドコンパクションパイル工法 設計・施工マニュアル」の寄贈

・契約のとおり完成した冊子を下記の部数委託者へ納品した。

①不動テトラ（株）300 部

②あおみ建設（株）250 部

③日本海工（株）50 部

*上記について、江藤理事から報告がなされた承された。また、4. に関連して、マニュアルは 1000 部の印刷を行い、600 部を納品として、残り 400 部を学会にて販売（5000 円/冊）するとの報告がなされた。

その他

*浅岡会長から、正会員の入会が限定されている状況では、中長期ビジョンを作製した段階で、H15 年では 46 歳以上の正会員が 51%だったが、H20 年度には 50 歳以上の正会員が 50%になっていることから、ベテラン技術者が参画できる企画立案が必要であることが指摘された。

*風間理事から、公益法人化に伴って、支部規程も変更することが必要となることが考えられ、東北支部をモデル支部として作製提案するので、参考にしてほしいとの提案がなされた。

